令和２年産「上越地域米」栽培技術情報 No. ４

令和２年５月１５日

早めの中干しと溝切りで良質茎を確保しよう

平坦地では４月の低温・多雨傾向による耕うん、代かきの遅れや低温・日照不足による苗の生育遅れで田植えを遅らせたところもありました。なお、中山間地の田植えは、ほぼ平年並と見込まれます。

１ 田植え後の水管理（中干しまでの注意点）

（１）今後は気温が高いと予想されており、定期的な水更新に努め、ワキによる根傷みや生育停滞を防ぎましょう。ワキの発生や表層剥離が多い場合は、夜間落水を実施してください。

（２）少雪の影響から番水が予定されている地域もありますので、計画的な水管理を行ってください。

２ 当面の技術対策

（１）中干し・溝切りの実施

○ 田植から 25 日後頃に稲株の茎数を確認し、目標穂数の７～８割の茎数となったら、中干しを開始しましょう。

○ 例年生育過剰となるほ場は、目標穂数の６～７割の茎数となった時期に開始してください

○ 中干し効果を高めるため、梅雨入り前までを目途にほ場の溝切りを行い、ほ場準備を進めましょう。

表　５月 15 日頃の品種別中干し開始めやす　　（注：１株当たり茎数は目標穂数の８割で計算）

品種	地　域	田植日	１株当たり茎数(本/株)			目標穂数	中干し開始
			50株植	60株植え	70株植え	(本/㎡)	時期めやす
つきあかり	平坦地	５月５～10日頃	－	15	－	340	６月５日頃
	中山間地	５月15～20日頃	－	－	12	320	６月10日頃
こしいぶき	平坦地	５月10～15日頃	－	17	－	380	６月５日頃
	中山間地	５月15日以降	－	16	14	360	６月10日頃
コシヒカリ	平坦地	５月10～15日頃	18	15	－	360	６月10日頃
	中山間地	５月15日以降	－	14	12	320	６月15日頃

中干し・溝切りのポイント

○ 溝の間隔は８～10 条おき（2.5m 程度の間隔）、深さは 10 cm 以上とし、溝の末端は必ず排水溝につなげる。

○ 中干しの程度は、田面に小ヒビ（幅約 1cm 程度）が入り、軽く足跡が残る状態。

○ 例年倒伏するほ場や大豆跡等、生育過剰となりやすいほ場は「強めの中干し」を実施する。

【溝の末端を排水口に接続した状態】

【適正な中干しの状態】

（２）中干し終了のめやす

幼穂形成期まで中干しを継続すると根域が縮小し、高温による品質低下になりやすいため、**出穂の１か月前**（早生は 6/25 頃、コシヒカリは 7/5 頃）には終了しましょう。

３ 病害虫対策

（１）いもち病防除

○ ほ場に放置された補植苗はいもち病の伝染源となるため早期に除去しましょう。

○ 業務用米、飼料用米等の多収性品種で田植時に箱施用の予防粒剤を施用していない場合は、６月中旬までに本田施用の予防粒剤を散布しましょう。

○ コシヒカリ BL のほ場で、いもち病多発生地に作付けし、箱施用の予防粒剤を施用していない場合は、６月中旬までに本田施用の予防粒剤を散布しましょう。

（２）斑点米カメムシ対策

○ 少雪により斑点米カメムシ類の越冬世代の生存率が高い可能性があり、畦畔等雑草地での密度が高まる恐れがあります。

○ 斑点米カメムシ類の密度抑制には、イネ科を中心とする雑草が開花・結実する前の草刈りが有効です。６月上旬以降、３～４週間隔で草刈りを実施しましょう。

次回の発行は６月中旬頃です。問い合わせ先：上越農業普及指導センター作物担当　025－526－9406　ＪＡえちご上越農業対策課　025－527－2050